



インクルージョン社会を めざした大学づくり

—特別なニーズをもつ学生への
「共育」支援を通して—

東北公益文科大学



本プログラムは

特別なニーズをもつ学生、とりわけ**障害を
もつ学生**への総合的・組織的支援

⇒当該学生の自立、社会参加、人間的成長を図る

(日常生活支援、修学支援、就労支援等を通じて)

⇒支援する学生の人間的成長を図る

(教職員・市民との協働による支援力育成を通じて)

東北公益文科大学の特色

平成13年4月 開学(公設民営方式)

所在地:山形県酒田市・鶴岡市

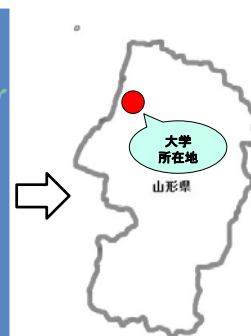
公益学部公益学科(収容定員960名)

公益学研究所(修士課程60名、博士後期課程12名)

○わが国唯一の「公益学」の教育研究

○地域とともに歩む「大学まちづくり」

東北公益文科大学の特色





学生支援に対する理念

- 1.一人ひとりに対するきめ細かな支援
- 2.地域との多様な連携による支援
- 3.「公益」理念の実践者を育てる支援



現在の取組

- 1.学生相談体制
 - ・基礎ゼミ(1、2年)・ゼミ(3、4年)担当教員
 - ・学生相談室によるきめ細かな支援
- 2.健康支援・メンタルヘルス支援
 - ・健康管理室による身体及びメンタルヘルスの支援
- 3.障害をもつ学生への支援
 - ・聴覚障害(ノートテイカー)、肢体不自由(支援学生グループ)
 - ・精神障害、発達障害→支援課題

現在の取組



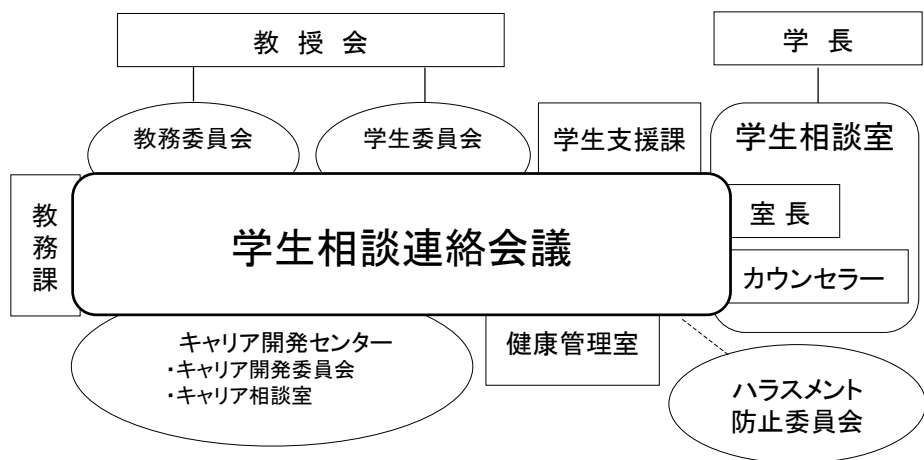
ノートテイク養成研修
 第1回:2007年2月10,11,17,18日
 第2回:2007年9月29,30日,10月6,7日



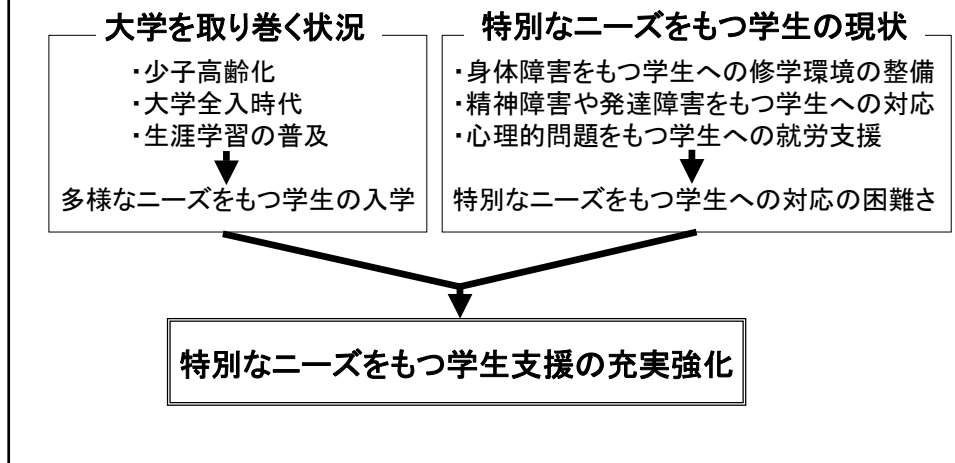
肢体不自由学生のピアサポート

現在の取組の組織体制

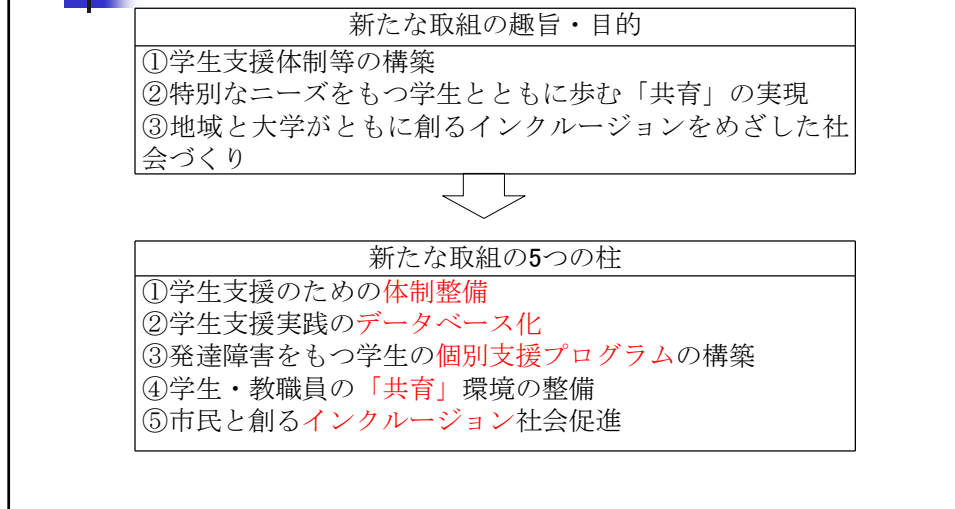
学生相談連絡会議を中心とした学内連携
 (必要に応じて、保護者、学外機関等との連携)



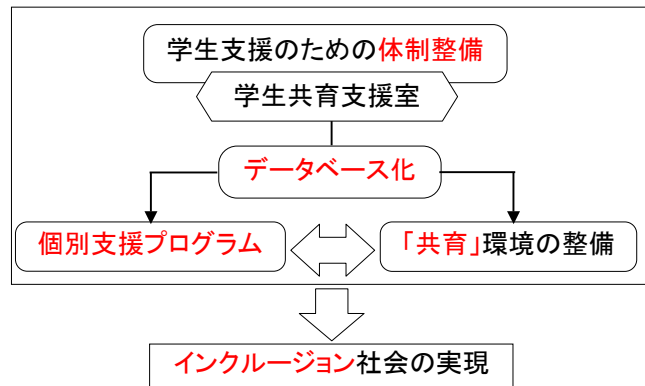
新たな取組の必要性



新たな取組の趣旨・目的

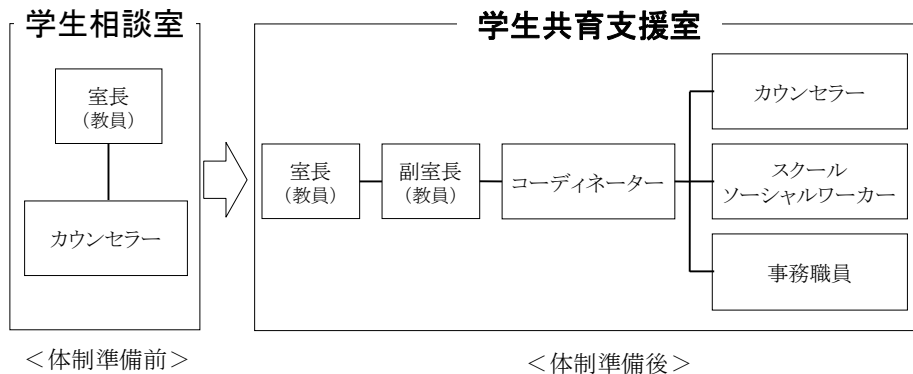


新たな取組の5つの柱



1. 学生支援のための体制整備

学生共育支援室の設置



1. 学生支援のための体制整備



学生共育支援室



肢体不自由学生のための休憩室

2. 支援実践のデータベース化

- (1) 入学時実施のUPIの評価分析
- (2) これまでの**学生支援実践**の結果及び評価
- (3) 新しい取組における**個別支援プログラム**の実施結果及び評価

3.個別支援プログラムの構築

- (1) 発達障害をもつ学生の個別支援プログラムの開発と実施
- (2) 就労支援プログラムの開発と実施
- (3) 高等学校等の関係機関との連携
 - ・「支援ネットワーク会議」の開催
- (4) ピア・サポートの推進
 - ・ピア・サポート体制の確立
 - ・支援学生に対する研修及びスーパービジョン

3.個別支援プログラムの構築



ケース検討会
2007年11月29日,12月6日
2008年1月10日,1月24日
計 4回開催



休憩室



4. 学生・教職員の「共育」環境整備

- (1) 啓発パンフレットの作成
- (2) 教職員対象の「特別なニーズをもつ学生支援のための連続講座」の実施
- (3) 1、2年生対象の「インクルージョン社会論」の開講
- (4) 障害をもつ学生と支援学生対象の「地域リーダー養成事業」の実施



5. 市民と創る インクルージョン社会促進

- (1) 地域社会における障害をもつ人々を対象とした「公開講座」の実施
- (2) 一般市民を対象とした「連続講座」の実施
- (3) 「インクルージョン社会づくり市民フォーラム」の実施

年次計画

項目	平成19年度（1年次）	平成20年度（2年次）	平成21年度（3年次）	平成22年度（4年次）
学生支援のための体制整備	「学生共育支援室」の立ち上げ、学内支援組織体制の整備、他大学の調査の開始	支援実践プロセスの標準化	支援実践の高度化・専門化	支援室及び学内支援体制の見直しと改善策検討
学生支援実践のデータベース化	UPI実績の整理、データベース化準備	UPI及び支援実践のデータベース化	UPI及び支援実践のデータベース化	支援実践の評価
発達障害をもつ学生の個別支援プログラムの構築	「個別支援プログラム」の開発、支援ネットワーク会議立ち上げ	「個別支援プログラム」による支援の実施・評価、分析	「就労支援プログラム」の開発	各プログラムの総括と分析評価
学生・教職員の「共育」環境の整備	啓発パンフレット作成、「インクルージョン社会論」科目開講準備	教職員向け「連続講座」開始、「インクルージョン社会論」科目開講	「地域リーダー養成事業」の開始	学生・教職員への学生支援に関するアンケート調査
市民と創るインクルージョン社会促進	「公開講座」「連続講座」の検討準備	「障害をもつ人々に向けた公開講座」の開始	「インクルージョン社会をめざす市民連続講座」の開始	「インクルージョン社会づくり市民フォーラム」の開催

新たな取組の評価

- (1) 特別なニーズをもつ学生による **自己評価**
- (2) 学生支援に関わった学生・教職員による **自己評価**
- (3) 全学的なアンケート調査
- (4) 専門家・関係機関職員・市民等による **第三者評価**

(最終年次)



「**学生共育支援評価委員会**」による全体評価

特別なニーズをもつ学生、支援学生及び教職員の代表、
専門家、関係機関職員、市民から構成



新たな取組の有効性

1. 特別なニーズをもつ学生のための支援体制や個別的支援方法の**モデルの構築**
 2. 特別なニーズをもつ学生支援の**実践と研究の蓄積**
 3. インクルージョン社会を創り、担う市民としての**学生の成長**
- ⇒全国の高等教育機関における学生支援の充実に一定の波及効果



プログラムの目指すもの

1. 共生社会を担う**人づくり**
2. すべての学生を包み込む**大学づくり**
3. インクルージョンを目指す**地域社会づくり**



インクルージョン社会を めざした大学づくり

—特別なニーズをもつ学生への
「共育」支援を通して—

東北公益文科大学



東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science